

厚生省心身障害研究班（口蓋裂）実態調査報告

新潟大歯学部

花 田 晃 治

唇顎口蓋裂患者の実数を把握することは、諸外国にみられるような、出生時登録制度のないわが国においては、かなり困難なものと考えられる。したがって、これに代るものとして三歳児健康診断による発見、および保健所に出される医療援助制度の申請件数を調査する方法が考えられる。このうち、三歳児健診は、新潟市においては50%以下の受診率であり、他の心身障害児を含めても、これによって発見される子どもの数は、非常に低い現状である。

唇顎口蓋裂患者の場合は、粘膜下口蓋裂患者の一部を除いて、その全てが手術を必要とするため、育成医療の給付を受ける。したがって各保健所における育成医療の申請数が、唇顎口蓋裂患者の実数にほぼ近似した数字と考えてよい。

新潟市における昭和51年度および52年度の育成医療の申請件数（交付数も同じ）を別表1に示した。これによるとおよそ500～600人に1人の割合で出生していることになるわけで、この申請数に含まれない未発見となりがちな粘膜下口蓋裂患者が潜在することを考慮すれば、各研究者の統計に示される出現率と一致するものと考えられる。育成医療交付の手続き経路図を図1に示した。

また、新潟大学歯学部附属病院言語外来における、唇顎口蓋裂新生児の来院数を昭和49年出生児から昭和52年出生児の4年間について表2に示した。（この数字には他院手術例も含まれている）。表3には、それら総計63名の破裂型別内訳を示した。

以上

<表1>

新潟市における育成医療申請件数

	新生児数	口蓋裂育成医療申請件数	比率
昭和51年出生者	7,507	12	625:1
昭和52年出生者	7,147	12	595:1

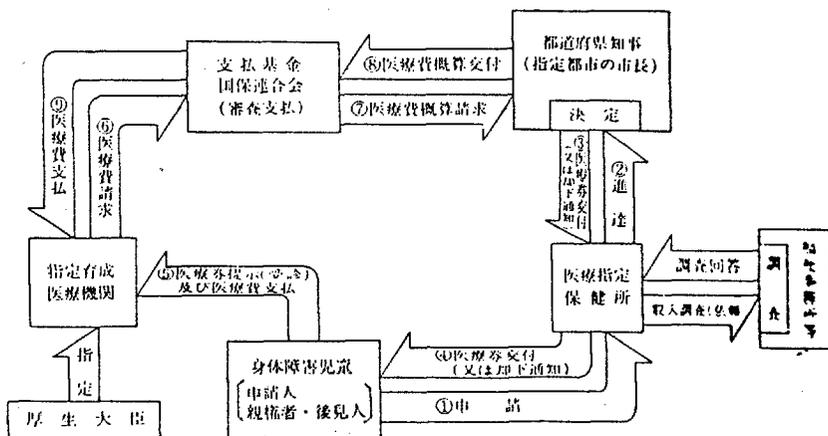
<表2> 新潟大学歯病言語外来における唇顎口蓋裂新生児来院数(新患)

出生年	総数	患者住所別内訳	県内	県外
49年生	17	11	(市内 2)	6
50年生	23	20	(市内 3)	3
51年生	14	14	(市内 1)	0
52年生	9	7	(市内 2)	2
合計	63	52	(市内 8)	11

<表3> 表2における63名の破裂型別内訳

唇裂	0
左唇顎口蓋裂	18
右唇顎口蓋裂	12
両側 "	8
硬軟・粘膜下 "	25
	63

<図1> 育成医療の経路図



↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

唇顎口蓋裂患者の実数を把握することは、諸外国にみられるような、出生時登録制度のないわが国においては、かなり困難なものと考えられる。したがって、これに代るものとして三歳児健康診断による発見、および保健所に出される医療援助制度の申請件数を調査する方法が考えられる。このうち、三歳児健診は、新潟市においては50%以下の受診率であり、他の心身障害児を含めても、これによって発見される子どもの数は、非常に低い現状である。